Hijicho
大阪市立大学新聞

2014.7.2
第28号

「シダイ」を背負って

負けられない戦いがそこにある

—府大戦結果　2-3面

Hijicho 大阪市立大学新聞

ニュース

2-3面 ◆ 市大連覇ならず　～第39回大阪市立大学・大阪府立大学総合競技大会～
5面 ◆ 「学情庭園アステリア」開園！
10面 ◆ 就職支援課に聞く　市大生の就活
12面 ◆ 旧ウィステリア「野のはなハウス」に改名

コラム・連載

4面 ◆ コラム・日本vol.4 納豆から見る地域差
6-7面 ◆ ブラックバイトに気をつけろ！
8-9面 ◆ 飛辞書 vol.7「パラドックス」
11-12面 ◆ パソコン選びで賢くなる方法

7/9(水)は BOX総会です。

2014年度BOX総会は、7月9日18:30より811教室にて行われます。
BOX所有団体・新規BOX希望団体の代表者の方は必ず出席してください。

市大連覇ならず ～第39回大阪市立大学・大阪府立大学総合競技大会～

今年で39回目を迎える市大の初夏の風物詩、大阪市立大学・大阪府立大学総合競技大会（通称：府大戦）が6月14日(土)、15日(日) に大阪府立大学にて行われた。今年は天気にも恵まれ、晴れ渡る空の下で両大学の熱戦が繰り広げられた。

大会中、両大学の実行委員と府大応援団にお話を伺った。

実行委員の声

大会実行委員長 (大阪府立大学体育会委員長)
萩原昂太郎さん (3回生)

去年は市大に負けてしまったのですが、今年はすべての試合で、そしてあらゆる面で勝ちたいと思っています。この大阪市立大学・大阪府立大学総合競技大会を実施するにあたり、周りの幹部の人など多くの人に助けられてきました。やらないといけない仕事はたくさんありましたが、各々で分担してこなしていきました。

また、この大会は伝統ある大会なので、もっと一般の学生にも知って、観戦してもらいたいと思っています。府大と市大は同じ公立大学なので、お互いに切磋琢磨していきたいですね。

大会実行副委員長 (大阪市立大学体育会幹事長)
影林義之さん (法・3回生)

去年は市大が優勝したので、連覇できればと思っています。開会式はいつも出席する部が少ないのですが、今年は開会式に参加するように各部に要請したところ、多くの部が参加してくれ、いつも以上に盛り上がったと思います。大会実行副委員長、そして体育会幹事長として、これから指揮をとっていきたいです。

府大応援団の声

府大応援団団長 橋本侑樹さん (3回生)

普段からこういった部活の試合に赴き、応援をしています。開会式で府大応援団と市大応援団とエール交換を行ったのですが、市大応援団は人数が多く、すごい迫力に力に圧倒されてしまいました。我々、府大援団は7名と少ないですが、今年は市大に勝てるように応援団は7名と少ないですが、今年は市大に勝てるように全力で応援していきたいです。

大会結果

	競技種目	市大	府大
	剣道 (4月12日)	○	●
期	陸上競技 (4月19日)	○	●
間	弓道【男子】(5月6日)	●	○
外	弓道【女子】(5月6日)	●	○
開	水泳 (5月31日)	●	○
催	アイスホッケー (6月7日)	○	●
	サイクリング (6月7日)	中止	
	サッカー (6月8日)	●	○
	バレーボール【男子】	●	○
	バレーボール【女子】	●	○
6	バスケットボール【男子】	○	●
月	バスケットボール【女子】	○	●
14	準硬式野球	●	○
日	軟式テニス	●	○
	日本拳法	○	●
	アーチェリー	●	○
	ハンドボール	○	●
	バドミントン【男子】	●	○
6	バドミントン【女子】	●	○
月	ソフトボール	●	○
15	硬式テニス【男子】	○	●
日	硬式テニス【女子】	○	●
	空手道	●	○
	卓球【男子】	○	●
	卓球【女子】	●	○
		10勝	14勝
総合優勝		●	◎

10勝15敗で府大の総合優勝。
通算優勝回数
39戦中 市大15勝 府大22勝 (1分け1中止)

試合後の選手の声

日本拳法部 4－1で白星

山口文平さん (工・3)

試合形式は各校5人ずつが争い、3勝した側の勝利となります。府大戦は僕らにとって負けることのできない試合です。4－1で勝つことはできましたが、今回の試合で見えてきた課題や弱点を次の試合に向けて補強していきたいです。

女子バスケットボール部 61－51で白星

阿久根志帆さん (生・2)

上回生が抜けて初めての府大戦でした。自分たちのやりたいことがすべてできたわけではないですが、今回の試合はいい経験になったと思います。府大とはよく試合をやらせてもらっていて、相手チームの特性や選手の特徴などの分析はしていました。府大とはあまり実力の差はなく、練習試合も含めると、大体五分五分の結果です。ただ公式戦では負けていないので今回も勝つことができてよかったです。
夏に大きな大会があるので、できるだけ多く勝利し、リーグの昇格を目指したいです。

アーチェリー部 3965－4496で黒星

峠原淳志さん (工・3)

今回の試合形式は各校8名ずつが出場し、その8名の点数の合計で争われます。男女混合で市大チームは1回生のメンバーがメインでした。思うように点数が伸びず、不本意な結果となってしまったので、練習内容を一から練り直して、次の試合に向けて頑張っていきたいと思っています。

女子バレーボール部 1－2で黒星

堤杏紗さん (工・4)

大接戦で勝利まであと一歩というところでしたが、試合の内容はとても良いものだったと思っているので満足しています。新メンバーになって、まだまだ十分に練習時間が取れていないので、これから9月の秋リーグに向けてチーム一丸となって練習し頑張っていきます。

From editor

筆者は、スポーツに普段からあまり興味を持っているわけではないが、両校の白熱した試合を観戦しているうちに、取材ということを忘れて試合に見入ってしまうほど、引き込まれた。
体育会系の部活に所属している人以外には府大戦を知らない人も多いと思うが、部活に所属していなくても十二分に楽しめる大会である。来年は市大で開催される予定なので、ぜひ多くの市大生に足を運んでもらい、市大・府大両校の架け橋である大会を盛り上げてもらいたい。

参加された選手・大会関係者の皆さまお疲れ様でした。

文：町田和紀 (Hijicho)
写真：長澤彩香 (Hijicho)

コラム・日本 vol.4
納豆に見る地域差

今回の「コラム・日本」では、日本の伝統食である納豆について述べていきたい。

7月10日は納豆の日

突然だが、7月10日は納豆の日である。この事実を既に知っていた読者は少ないのではないだろうか。この記念日は7 (なっ) 10 (とう) の単なる語呂合わせにすぎない。しかし、この納豆の日が制定された背景について調べてみると興味深いことが分かったのだ。

納豆の日が制定された背景

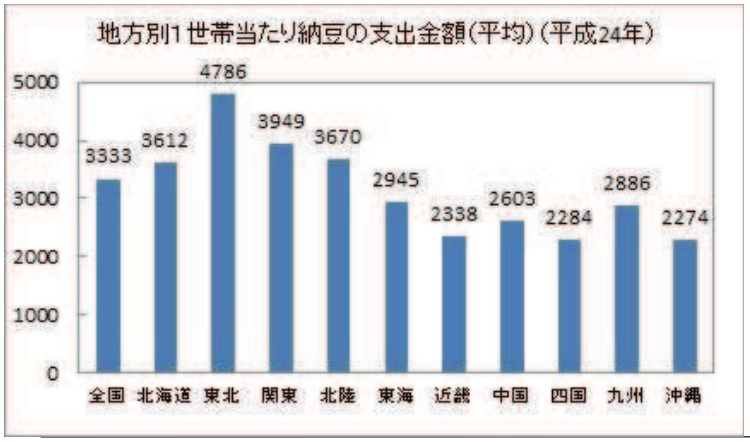
当初、納豆の日は、昭和56年 (1981) に関西納豆工業共同組合が関西における納豆の消費拡大を目的として、関西限定で制定された記念日であった。その後、全国納豆共同組合連合会が平成4年 (1992) に改めて、7月10日を納豆の日と決めたことにより、全国的な記念日となったのである。

では、各地域の納豆の消費量について、統計を利用して検証してみたい。

各地域の納豆の消費量

表を見てほしい。これは、総務省統計局の家計調査で判明した1世帯あたりの納豆の年間支出金額(平成24年)を表したグラフである。近畿地方は2,338円と全国で3番目に少ない。また、都道府県別に見た場合でも、43位 大阪市 2,650円、46位 神戸市 2,494円、47位 和歌山市 1,976円 <農林水産省「食料品消費モニター調査」(平成11年度)を参照> となっており、関西では特に納豆を食べないという事実が浮かび上がってくる。

全体的に見ると、東日本の方が西日本よりも納豆の消費量は多い傾向にあり、食文化の差異を見て取ることができるだろう。ちなみに、生産量日本一は茨城県、消費量日本一は福島県だ。



では、なぜ関西では納豆が敬遠されるのだろうか。

関西で納豆が好まれない理由

関西で納豆が敬遠される理由として挙げられるのは、納豆を食べる文化が無かったことである。その背景としては、関西は関東に比べて高温多湿であり、納豆菌が関東より臭くなるために食文化として根付かなかったのだ。

他の背景としては、関西では食文化が豊かだった為、保存食品である納豆は普及しなかったというものである。昔は、全国から物資の集まる都が奈良や京都にあった為、保存食は必要とされなかったのだろう。

しかし近年では、納豆に含まれる成分の健康促進効果がメディアで報道された影響により、関西においても若者を中心に納豆の消費量が伸びてきている。将来は関西でも納豆を好む人が増えるかもしれない。

終わりに

今回のコラムでは、納豆にスポットをあてて食文化の地域差について見てきた。

関西では匂いのために納豆を苦手とする人が多いことが分かったが、どうすれば納豆の匂いを軽減できるのだろうか。それは納豆に酢や大根おろしを混ぜることである。興味のある人はぜひ試してもらいたい。

【参考URL】
「なるほど統計学園」
http://www.stat.go.jp/naruhodo/c3d0710.htm
「『関西人、納豆を食べない』というのは俗説か」
http://www.excite.co.jp/News/bit/00091157927912.html
「納豆 (wikipedia) 」
http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B4%8D%E8%B1%86
「OKWave」
http://okwave.jp/qa/q269721.html
「農林水産省ホームページ」
http://www.maff.go.jp/j/study/daizu_gensanti/01/pdf/data1.pdf
「教えて!goo」
http://oshiete.goo.ne.jp/qa/634843.html?from=recommend

山原怜太朗 (Hijicho)

「学情庭園アステリア」開園！

先日オープンした学術情報センター屋上庭園の愛称募集・表彰式が、6月25日(水)、「学情庭園 Asteria(アステリア)」にて行われた。これは、屋上庭園の愛称を公募した中から、最優秀作、優秀作、佳作が選ばれたものである。

最優秀賞：「Asteria」
優秀賞：「学情庭園」
佳作：「市大のラピュタ」・「学上庭園」

写真＝表彰式の様子

最優秀作に選ばれた「Asteria (アステリア)」を出したのは、経営学研究科後期課程3年生の井上暁光さんだ。

(ノミネート時のコメントより)
市大の中でも最も高い建築物の頂上に置かれたこの憩いの場からの息をのむような、空や街の眺望の美しさに魅せられた学生たちは、在学中、この庭園に何度も通うことになるでしょう。アステリアとは、ギリシャ神話に伝わる「星座」を意味する女神の名です。最果てからの光を見る学生たちは、視野を大きく広げ、どのような困難にも立ち向かおうという決意を胸に抱くに違いありません。

井上さんは、「夢基金 (注) などでも支援していただいており、学情の屋上が開放されることになったのは嬉しいですね。学部生のときからずっと市大で過ごしているので、市大には愛着があります。アステリアという名称は、妻と一緒に考えました。
たくさんのハーブや花があり、こだわりを感じますね。また、大和川や8号館が一望でき、こんなにきれいだったのかと驚かされます。学情のホームページには昼の写真しかないのですが、夜のハルカス方面の景色はとても良いです。まだ人も少なく、夜景を楽しむ穴場だと思います。」と述べた。

学術情報総合センターの庶務課で今回屋上庭園のリニューアルを担当した數田麻紀さんは、「愛称を利用者者に付けてもらおうという考えはあったのですが、予想以上に寄せられてしまい役員会で決まらなかったので、総選挙という形にしました。愛称になった「アステリア」は「星の女神」という意味があるので、屋上で星を見られるイベントとして夜のライトアップも行っています。夜景もきれいなので楽しんでもらえればと思います。」と話した。

これまでの学情の屋上のリニューアルに関する取り組みについても數田さんに伺った。「就職などで厳しい環境にある学生のみなさんが少しでもほっとできる環境を作りたかったんです。リニューアルの施工にあたって、業者にコンセプトを決めてプレゼンしてもらう公募型プロポーザルという方式を取りましたが、選ばれた案は『サードプレイス』をつくる、というものでした。サードプレイスというのは、家、学校や職場に続く第三の居場所という意味です。周囲にある3つの花壇はもともとあったのですが、全く手付かずの状態だったので、土から入れ替えて整備しました。真ん中の植栽枡は今年作られたもので、緑陰を作ることでヒートアイランド現象の抑制にも役立っています。狭い場所ですが70～80種類の植物があります。また、安全面の配慮から景観を邪魔しない特殊なフェンスを全面に張りました。生活科学部や工学部の専門の先生方からも学術的な助言をいただいた結果です。学情のゲート内にはこれまで飲食できる場所がなかったので、ごはんを食べる場所としても活用してもらえればと思います。
学情は、住吉区で一番高い建物です。今後、自動販売機を導入するなど環境の整備を進めるとともに、花火大会に合わせた一般市民への開放なども企画しています。」

アステリアでは、9月30日まで、毎日20時まで夜間ライトアップを行っている。多くの人たちの思いが込められた、学情の屋上。日々の学業や諸々の活動で溜まった疲れを癒されに、是非上ってみよう。

(注) 大阪市立大学はばたけ夢基金

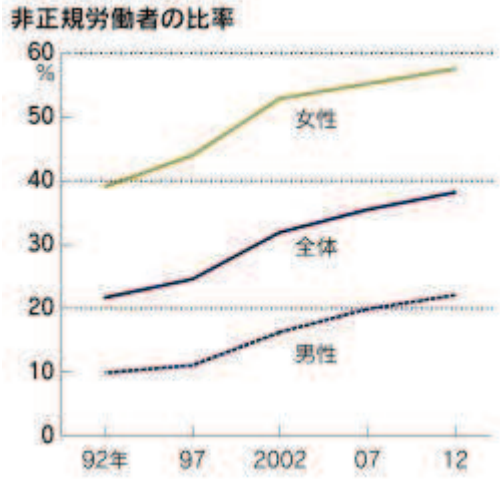
文：長澤彩香 (Hijicho)
写真：新宅慶騎 (Hijicho)

ブラックバイトに気をつけろ！

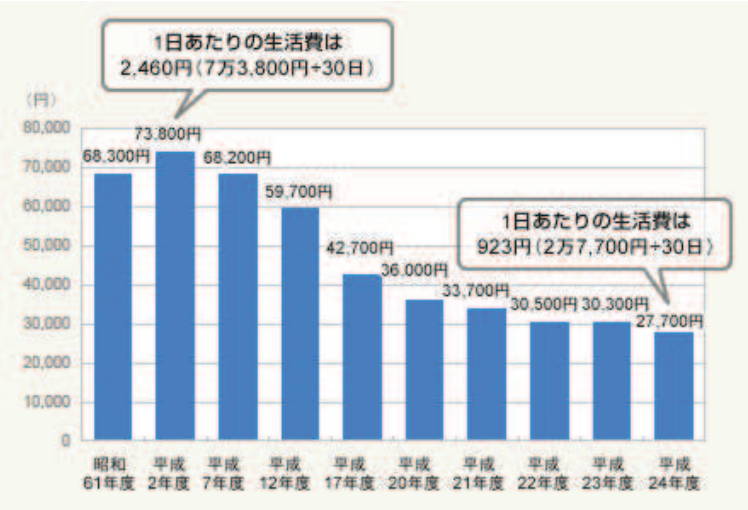
今やほとんどの人が一度は耳にしたことのある言葉、ブラック企業。最近では、そんなブラック企業に次ぐ新たな言葉が見られるようになってきた。それが「ブラックバイト」である。
ブラックバイトとは、違法・無法な働かせ方をするアルバイトのことであり、2013年に中京大学の大内裕和教授が提唱したことでその言葉が知られるようになった。違法な長時間労働の強要、厳しいノルマ制度、低賃金・ただ働きといったような労働を強いることが問題となっている。
では、なぜ最近になってこのような問題が騒がれだしたのであろうか？以下では、学生アルバイトの中でも特に大学生に注目してその原因を考える。

社会的背景

単純に言えば、国内の経済状況の悪化である。
より詳細に言うと、まず挙げられるのが不景気による人件費の削減を要因とする、非正規雇用の拡大だ。現在の非正規雇用の比率は4割近くにも上り、職場における正社員と非正社員の割合は昔と大きく異なっている。そのため本来は正社員が担うような業務を、アルバイトに任せるといった状況が多くなっているのだ。
また、非正規雇用の中でも特にフリーターの増加は、学生の1つのアルバイトへの固執を助長する一因でもある。学生よりもシフトの自由が利くフリーターが増えると、学生のアルバイト採用が困難になるのである。
実際に今の学生はアルバイトの面接に落ちることも多くなっており、今のアルバイトを辞めてしまうと収入が危うくなるのではと危惧する学生も多い。そのため、辞めたくても「辞めさせてもらえない」ブラックバイトの状況とは別に、ブラックバイトであるのに「辞められない」状況も生まれているのである。



また、国民の所得減少も大きく影響している。近年の経済悪化による所得減少で、下宿生への仕送り額が低下しているという事実がある。下記に示した表の、東京地区私立大学教職員組合連合による私立大学新入生の家計負担調査によると、2012年には下宿生への平均仕送り金額が過去最低金額を更新した。第49回学生生活実態調査では、2013年には下宿生への仕送り平均金額が増加したものの、依然としてピークとされる1990年よりもその額は大幅に少ない。これにより学生がアルバイトで賄わなければならない生活費が増加し、学生のアルバイトへの依存が高まっているのである。



学生の優先順位の変化

学生の本分と言えば、もちろん学業である。しかしながら、近年では特に学生本人の中でそういった概念が揺らいでいるように感じられる。つまり、学生自らが授業よりもアルバイトを優先している面があるのである。
これはブラックバイトで働いている者に限らないが、夜遅くまで働いて午前の授業に遅刻する、アルバイトがあるために授業を途中退出するといった光景をしばしば目にする。また、無理なシフトに不満を抱く一方で受け入れているように見える者もいる。こういった学生自身の行動が、ブラックバイトの増加を助長するのだ。

学業の優先順位の低下とはつまり、大学で勉強することの価値が学生の中で下がったということである。では、なぜその価値が下がってしまったのだろうか？

まず言えるのは、大学の増加により大学進学が容易に

なったことである。2013年度時点で日本の大学進学率は50.8%と、およそ日本人の2人に1人が大学に進学するといった状況になっている。そのため、大学まで進学して勉強できることの貴重さがあまり感じられなくなっていると言える。
また、アルバイトの方がより自分の存在意義を感じられるというのもある。大学の授業は休んでも何も言われない。大人数の授業ならば、そもそも休んでいても分からないといった状態である。そんな大学とは違い、アルバイトは1人休めば業務に支障が出るし、過剰な労働や責任を課せられることは、裏を返せばその職場にとってそれだけ自分が重要である、または必要とされているともとれる。

以上のように、現在では大学での勉強よりもアルバイトにより価値を見出しやすくなっている。しかしながら、大学での勉強は社会で自らの能力を発揮するための重要なプロセスであり、あくまでアルバイトはそんな大学生活を送る手段の1つである。何のために大学に来ているのか、また、何のためにアルバイトをしているのか、もう一度じっくり考える必要があるだろう。

ブラックバイトに打ち勝つ

これまでブラックバイトが増加していることについて述べてきた。そんなブラックバイトをなくすための取り組みは、すでに各所で行われている。
例えば、日本共産党は今年6月2日に「ブラックバイトから学生生活を守ろう」という政策提言を発表し、ブラックバイトをなくすための取り組みを意欲的に行っていく旨を示した。
また、北海学園大学経済学部の川村雅則准教授のゼミでは、2011年度から毎年アルバイトの実態に関する情報収集を行い、アルバイト白書作りに取り組んでいる。この白書は年内に聞き取り調査の結果のほか、労働契約書の見方や労働法規の基礎的知識などの内容も盛り込んで完成させる予定である。
その他にも大学生を中心としたユニオンなどを結成しているところもあり、ブラックバイトに対抗するための活動は着々と広がっている。

ブラックバイトには、まだ法規制の範囲以外には公的なペナルティが設定されているわけではない。そのため未だ処置が不十分な点が多々ある。
また、明確な違法行為を行っているわけではないが、それまがいのことを行っている、いわゆるグレーゾーンも多く存在する。その代表的例が、アルバイトに業務やその他の面で過度の責任を課すといったものである。働くうえである程度の責任感は必要であるし、重要な仕事を任されることで同時にやりがいを得られることもある。どこからが”過度”であるのか、その線引きは曖昧であり一人一人異なるものだ。よって働いている本人も自らの労働状況が異常なものであると気づき難く、雇用者側も無自覚なケースすらある。そういったものの規制はさらに難しく、対処のしようがないというのが現状であろう。
ここで重要となってくるのが自己、あるいは他者の「冷静な目」である。学生とは何であるか、それに見合った業務とは何であるか。まだ認知され始めたばかりのブラックバイトであるからこそ、その発見と対処には殊更「冷静な目」が必要となってくる。皆さんもこの機会に自分、あるいは知人や友人のアルバイト先の雇用状態を見つめ直してみてはいかがだろうか。

【参考URL】
「日本共産党」
http://www.jcp.or.jp/
「全大学生活協同組合連合」
http://www.univcoop.or.jp/press/life/report.html
「不動産ジャパン」
http://www.fudousan.or.jp/topics/1305/05_1.html
「an report」
http://weban.jp/contents/an_report/repo_cont/pro/20140303.html
「47 news」
http://www.47news.jp/CN/201402/CN2014021801002856.html
「日本経済新聞」
http://www.nikkei.com/article/DGXNASFS1203R_S3A710C1EA1000

大塚成美 (Hijicho)

飛辞書
No.7「パラドックス」

「飛辞書 (ひじしょ) 〜文理を越えるその言葉〜」は、あなたの学科だけで使われているような特殊な言葉を取り上げ、分かりやすく説明していくコーナーである。「特定の学問分野だけで使われている言葉が、その分野を飛び越え、みなさんの知識になる」をコンセプトにしている。

第7回目の今回は論理学の分野で使われる「パラドックス」 (paradox)という言葉について取り上げる。

パラドックスとは？

パラドックスとは「妥当に思える推論から受け入れがたい結論が導き出されること」を意味する言葉である。噛み砕いて言い換えると、「正しく議論を展開しているのに導き出された結果が奇妙なことになっている」ということである。この「受け入れがたい結論」には、「論理的に矛盾が生じている場合」と「矛盾はないが、直感的には受け入れがたい場合」 (これを疑似パラドックスと呼ぶ場合もある)との二つの場合がある。

定義だけ述べていては非常に分かりづらいので、このパラドックスの一例を取り上げてみよう。

○村の理髪師のパラドックス

——ある村に、その村でただ一人の理髪師がいて、自分で自分のヒゲを剃らない村人全員のヒゲを剃るとする。では、この理髪師は自分のヒゲを剃るだろうか？

仮にこの理髪師が自分のヒゲを剃ったとしよう。そうすると、彼は「自分で自分のヒゲを剃らない村人全体」から除外されてしまうので村人でなくなり、他人のヒゲを剃る必要がない。もちろん自分のヒゲも剃る必要がなくなる。

次に、自分のヒゲを剃らないとしよう。そうすると、彼は「自分で自分のヒゲを剃らない村人全体」に含まれてしまう。よって、理髪師にヒゲを剃られる必要ができてしまう。しかし理髪師は今、自分のヒゲをそらないとされている。

これらは矛盾している。

○クレタ人のパラドックス

この例は紀元前にいたギリシャの哲学者エピメニデスにまつわるエピソードで、「ウソつきのパラドックス」等とも呼ばれている。

——クレタ人のエピメニデスは「クレタ人はウソつきである。」と言った。

もしこの発言が正しく、クレタ人がウソつきであるならば、クレタ人であるエピメニデスによってなされたこの発言も真っ赤なウソになってしまう。つまり、「クレタ人は正直者である。」となってしまう。これは最初の前提である「クレタ人はウソつきである。」ということに矛盾してしまう。

では、この発言が偽りで、クレタ人はウソつきでなく正直者だとすると、エピメニデスによってなされたこの発言も正しいことになり、「クレタ人はウソつきである。」となる。

やはりこれらも矛盾している。

以上の２つの例が「論理的に矛盾が発生している場合」である。

次に、「矛盾はないが、直感的には受け入れがたい場合」について観てみよう。 少し数学的な要素を含むことになるが、嫌悪せずに拝聴していただきたい。

◇ヘンペルのカラス

——命題「すべてのカラスは黒い」ということを示したい。だが、世界中にいるカラスを捕らえて一匹一匹観察し、すべて黒いということを確認するのは現実的に考えて不可能である。しかし、一匹もカラスを捕まえることなく命題を証明する方法が存在する。それは対偶命題「すべての黒くないものはカラスでない」ことを示せば良いのである。

対偶命題 (contraposition)とは、「PならばQである。」という命題があるとき、「QでないならばPでない。」という命題のことであり、命題論理の規則として命題と対偶命題の真偽は同じであることが約束されている。

こうすることにより、カラスについて主張したいにもかかわらず、一匹もカラスを調べることなくそれを証明することができるのである。 (現実ではすべての黒くないものを調べるものも不可能であるが)

◇誕生日のパラドックス

この例はもしかすると皆さんも一度は聞いたことがあるかもしれない。これは確率にまつわるパラドックスである。

――生徒の人数が23人のクラスがある。このクラスに在籍する生徒の誕生日が1組でも同じになる確率は約50%である。

1年は365日存在し (都合上閏年の場合を除いて考える)、同じ誕生日である幅もその分存在するにもかかわらず、たった23人の学級で1ペア誕生日が同じである確率は半分以上なのだ。直感的にはとても信じがたいが、理論的にはまったく正しいのである。
その証明は、「少なくとも1組誕生日が同じになる場合」は「1組も誕生日が同じにならない場合」の否定(補集合)になる事を利用する。
「1組も誕生日が同じにならない場合」とは、「すべての人の誕生日が異なる場合」である。
その確率は、23人がそれぞれ誕生日となりうる場合における確率をかけたものであり、それは

$$\frac{365}{365}\times\frac{364}{365}\times\cdots\times\frac{344}{365}\times\frac{343}{365}=0.4927\cdots$$

であるので、求めたい「少なくとも1組誕生日が同じである確率」は

$$1-0.4927\cdots=0.5072\cdots$$

となり、確かに約50%となっている。

以上が「矛盾はないが、直感的には受け入れがたい場合」の例である。

矛盾の回避

これまで紹介してきた例以外にもパラドックスは数多に存在する。数学の論理学―これを数理論理学(mathematical logic)という―を専攻する者はこのようなパラドックスを含む、論理規則やそういった体系について日々研究しており、そこで発見された新たな法則などが、自然科学を含む論理的に物事を考える学問全般の基盤を保証するものとなる。なので、こういった論理は学問にとってその存在を確立するための非常に重要なツールであり、要となる。
実際、上の「村の理髪師のパラドックス」や「クレタ人のパラドックス」のような論理矛盾を孕むパラドックスは「ラッセルのパラドックス」という数学の集合論で表されるものに一般化できる。そして、そのパラドックスを回避するための手法として「公理的集合論」という学問が開拓された。この分野は、「公理」と呼ばれるいくつかの最小のルールを決め、それを組み合わせて論理規則を作っている。この公理を集めた規則体系、例えば「ZFC公理系」と呼ばれるルール体系では、ラッセルのパラドックスを引き起こすような集合の存在をそもそも認めない。こうすることによって矛盾を含むパラドックスは回避されている。

終わりに

パラドックスというものは日常にも潜んでいる。日常の中ではその矛盾に気がつかなかったり、とりわけ重要視することもなく物事が進められている。しかし、こういったパラドックスに内在する論理規則のような複雑そうに思える体系を理解しようとすることは、物事を論理的に考えるトレーニングにもなる。皆さんも思考を巡らせてみてはいかがだろうか。

参考文献

吉永良正『ゲーデル・不完全性定理』 (BLUE BACKS)

大司雄大 (Hijicho)

就職支援室に聞く 市大生の就活

6月に入って、2016年卒の学生対象の就職支援サイトがオープンするなど、特に今の3年生や院生は、本格的に就職を意識し始めた人が多いのではないだろうか。そこで、市大の就職サポートの体制はどうなっているのか、そして、そもそも就職活動 とはどんなものなのか、就職支援室の岩川室長にお話を伺った。

－就職支援室で主に行っていることや学生へのサポート体制を教えてください。

大きく分けて3つのことを行っています。1つ目は今まさに行われている学生向けのガイダンス、2つ目は学内企業セミナー、3つ目は学生との個別の相談です。そのほかには学生が書いたエントリーシート (注) の添削や進路・就職相談、面談の練習、マナー講座等も行っています。多い時期には1ヶ月でのべ300人もの学生と面談をします。

－これから就職活動に向けて学生はどうすべきでしょうか。

一般的に言われる就職活動の始まりは広報活動の始まりを指しますが、個々人が就職活動をいつはじめるかは自分次第です。今3回生から広報活動の開始が3月に繰り下げられますが、就職支援室のイベントの実施時期は去年とほとんど変えていません。特に夏休みをどう有効活用するかは大切なことです。

たとえばインターンシップ (就業体験) ですが、これには2種類あります。一つは本来のインターンシップの意味である就業体験です。例えば、百貨店なら実際に売り場に立ってみたり、メーカーや技術系なら工場に行ったり、営業なら一緒に得意先を回ったりします。しかし、最近は機密保持の観点から、外部の人間である学生を従来通り参加させることが難しくなってきています。

そこで最近増えてきているのが、もう一つのたくさんの学生にグループワークなどでシミュレーションをさせる疑似体験型のインターンシップです。どちらの形も取っている会社もあります。

そもそもインターンシップが始まった経緯ですが、入社して1年や2年で自分が思っていたものと違う、との理由で離職する人が増え、社会問題になった時期がありました。そこで打ち出された対策がインターンシップでした。夏休みにインターンシップに行くのも選択肢の一つですが、「行ったほうがいいらしい」という漠然とした感じで行くのではなく、自分は何のために行くのか、目的をしっかり持ったうえで参加することが大事です。

この夏に、インターンシップに行ってみたい人は行けばいいと思いますし、資格やTOEICの勉強をしたいなと思う人は勉強に打ち込めばいいし、バイトに励むのもいいと思います。就活は何かとお金がかかりますからね。3月になってしまうとエントリーシートを書いたり、やらなければいけないことがたくさんあるので、まだ時間に余裕があるうちに下準備が必要です。特に3回生は自分自身自身にとって一番良い夏にすることが大切です。

―多くの学生と面談する中で見受けられた市大生の特徴はありますか。

一言でいうと真面目ですね。決められたことはしっかりできているし、その点については企業の方からの評価は高いです。ただ個性をあまり前面に出さない学生が多いと思います。受動的な部分はすごく良い姿勢なのですが、能動的な部分について、市大生はもっと積極的になればいいと思います。

－先日、日本経済新聞に掲載された「人事が選ぶ大学ランキング」に市大が全国3位にランクインしましたがどう感じられましたか。

私も記事を読んだだけなので、詳細については述べることはできませんが、とてもありがたい話だと思っています。市大を卒業した先輩であったり、学生や教員や職員なども含め市大がこれまで行ってきた取り組みの結果だと思います。

―市大生に一言お願いします。

「焦らず、怠らず」という言葉をいつも使っています。就職活動を前にして不安に駆られ焦っているのも良くない。かといって何もせず、ボーっと過ごしてしまうのも勿体無い。積極的に自分ができることを見つけて取り組んでいくことが大切です。就職活動に対して不安があることは当然です。それは就職活動が未知の世界だからです。不安をすこしでも解消できるように大学が主催しているガイダンスやセミナーに参加して、就職活動というものがどのようなものか知ってもらいたいと思っています。資格の勉強でも、TOEICの対策でも自分がすべきだと思うのであれば、学年に関係なく取り組んでいきましょう。

(注) 企業の採用活動に参考として使われる書類のこと。形式は企業によってさまざまである。

From editor

多くの学生がこれまで、またはこれから経験するであろう就活。筆者自身も就職活動が控えており、友人たちとの会話の中でも、よく話題になり、誰しもが少なからず就職活動に対する不安を口にしている。たしかに、どの企業に就職するかは今後の長い人生を左右する重要なポイントであろう。

今、我々は人生の大きな分岐点に立っているのだ。大学生活は長いようで短い。どんな道をこれから歩むのか、今のうちに一度じっくりと自分の将来を見据えて考えたほうがよいかもしれない。(町田)

斉藤光佑 (Hijicho)
佐伯美奈 (Hijicho)
町田和紀 (Hijicho)

パソコン選びで賢くなる方法

皆さんはパソコンを選ぶときに気をつけていることはあるだろうか？何も考えずに店員さんに勧めれたものを購入していないだろうか？
確かに店員さんは性能がいいものを勧めてくれるが、最終的に購入を決めるのはその人自身なので、性能についてある程度知っておきたいものである。

パソコンの性能については店頭の表示を見ると、パソコンの処理速度についてや画面の大きさ、BD (ブルーレイ・ディスク) は使えるのか、など様々なことが書かれている。ところで、性能の記憶装置欄に「HDD500GB」や「SSD60GB」といった表示を目にしたことはないだろうか。SSDというのは馴染みのないものであるとしても、HDDの方はまだ私たちに馴染みあるものである。例えばHDDは、テレビ番組の録画に使われるハードディスクレコーダーで使われている。HDDのおかげで録画の度にDVDを出し入れしなくても済むのだ。SSDはHDDと同じくデータを保存するために使われるがその仕組みはHDDとは異なる。そこでSSDとはどのようなものか、ここで紹介する。

SSDとは何か?

SSDはHDDと同様アルファベット3文字でぱっと見ただけでは同じような印象を受けるが、SSDとはどのようなものであるのだろうか。

略称ではわかりにくいが、正式名称で表すと両者の一つ目の違いが見えてくる。

SSD・・・Flash Solid State Drive
(フラッシュソリッドステートドライブ)
HDD・・・Hard Disk Drive
(ハードディスクドライブ)

上記に下線でも示したが、要は円盤(磁気ディスク)が入っている / いないの違いだ。

HDDは磁気ディスクで構成されているなら、SSDは何で構成されているのだろうか。
SSDの名前をよく見ると、"Flash" という単語が並んでいる。"Flash" だけでは聞いたことがないにしても、「フラッシュメモリ」という単語なら聞き覚えがあるのではないだろうか。
SSDは一般によく使われている「USBメモリ」や「メモリカード」と同じ中身である「フラッシュメモリ」というもので構成されているのだ。SSDをイメージするなら大きな「USBメモリ」や「メモリカード」といったところである。

SSDのメリット

前で簡単にSSDとはどんなものなのか紹介したが、ではSSDには一体どのようなメリットがあるのかが気になるところである。そこで、以下にSSDのメリットについて述べる。

・SSDはHDDと比べるとデータの読み書きをするときに**非常に静か**である。

なぜSDDがHDDより静かであるのかはその中身を考えると想像しやすい。先ほども書いたようにHDDには磁気ディスクが入っている。そしてのその磁気ディスクを回転させて、アーム部分でデータの読み書きを行う。すると必然的にディスクの回転音が生じるのである。一方、SSDはHDDのようにモータでディスクを回してデータを読み取るといった機械的な構造はなく、あるのはフラッシュメモリなので、HDDのように「ブーン」などの音は生じない。

・SSDは**低電力で動き**かつ**衝撃に強い**。
この理由も先ほどと同じで、SSDにはHDDのような機械的な構造がないため使う電力が少なく済み、少しの衝撃を加えた程度で壊れるということはないのである。

上に述べたこともSSDのメリットであるが、SSDの最大の特徴はその**データ読み込みの速さ**である。

HDDの場合だと、データを読み込むプロセスは次の通りである。

目的のデータがディスクのどの位置にあるかを特定する
↓
目的データの位置にアームがくるようにディスクを回転させる
↓
目的データ全体をアームで読み取る

HDDだとこれだけのプロセスを経てデータを読み込んでいるが、SSDはディスク構造がないのでこれらのプロセスを飛ばして直接データの読み込みができる。だから、SSDはHDDに比べて高速なデータの読み込みができるのだ。そしてこの高速なデータの読み込みにより、SSD搭載のPCでは電源ボタンを押してから画面が立ち上がるまでの時間をHDDに比べて短縮できる。

SSDのデメリット

今までこれだけのSSDの利点を挙げてきたが、完全無欠の物というのはあまり存在しないのであり、SSDにもデメリットが存在する。次にそのデメリットを紹介する。

・SSDは**値が張りすぎる**

データがいっぱいになったので外付けの記憶装置がほしいと思い家電量販店に行き、データのやり取りが高速で衝撃にも強いからSSDを買おうと思い立つ。このとき、HDDを買うようにSSDを買おうとすると財布の中身がさみしくなること必至である。というのも、現段階ではSSDはHDDと比べものにならないほど値段が張るのである。

一例をあげると、外付けSSD [128GB] が安いもので1万円弱で買えるが、容量のみにこだわるとすると、SSDを買うのと同じ価格で外付けHDD [3TB (※1)] 仕様程度のものが購入できるのだ。

別のデメリットとしてSSDはあくまでもフラッシュメモリ (※2) であるがゆえに書き込み回数がHDDに比べると制限されるというのがある。だがこれに関しては、業務で四六時中データの書き換えを行わないといけないという状況でない限り問題にならないレベルである。

以上がSSDのメリット/デメリットである

これまでのことを簡単にまとめると

SSD・・・値は張るが、データの読み込みが早いので速さが要求されるものに使う。

HDD・・・SSDに比べて読み込みは遅いが、安価で大容量のものが手に入るので、動画等のサイズの大きいデータ保存に使う。

このように両者ともに良い面・悪い面があるので、実際に自分でパソコンを選ぶときには自分がどれくらい多くのデータを保存するつもりなのかや、サクサク、データのやり取りをしたいのかを考えた上で、自分に合うものを選んでほしい。

(※1) TB(テラバイト) :1TB=約1024GB
(※2) フラッシュメモリ :メモリのある部分に電子を溜めたり抜いたりすることでデータを記録する。書き込み回数が多いと電子の移動が頻繁に起こり、メモリの電子を溜めておく部分の性能が落ちてうまくデータが記録できなくなる。

大谷優多 (Hijicho)

旧ウィステリア 「野のはなハウス」に改名

学術情報総合センター1階にあるレストラン (旧名: ウィステリア) の名称が7月1日(火)より「野のはなハウス」に改名される。7月22日からは石窯で焼いたピザ (直径約30cm 値段980円) のテイクアウトが始まる予定だ。

平成25年12月末に社会福祉法人野のはな に経営が委託されてから、メニューや経営戦略等で大幅な改造が進んでいる。今年の8月11日〜9月8日の改修工事を経た後、新たな「野のはなハウス」がリニューアルオープンするという。

野のはな理事の吉川卓次さんは「パーティー等にぜひ利用してほしい」と話した。

石原奈甫美 (Hijicho)

写真＝テイクアウト可能なピザ